

【事業計画名】

広幅高密度ジャカード織機を用いた 高精細・高品質生地を生産販売

従来の受注型生産体制では、播州織のさらなる高付加価値化が困難な状況にあった。当社では、さらなる技術の高度化をめざして、写真など高精細表現を可能にする新設備を導入した。これにより、多種多様なデザインのニーズに応え、直販型工場への転換をめざす。



取 り 組 み の 背 景

創業以来、播州織生地の織物工場として産元商社からの受注生産のみを行ってきた当社であるが、近年の国内需要の停滞や海外製品の台頭など厳しい環境変化により受注量が減少傾向にあった。そのような状況に危機感をおぼえ、当社では以前よりアパレルメーカーとの直接取引を模索してきた。アパレルメーカーからは、技術力のみならず繊細なデザインの検討や短納期など、生産工場との直接取引による柔軟な対応への要望が強く、そのような高度な要望に応え他社との一層の差別化をはかるために、本事業において、生地幅66インチ、18インチ径柄の生地を織ることができる高密度ジャカード織機を導入した。これにより、従来の受注型工場では実現できなかった高付加価値製品を生産できる体制が整った。

取 り 組 み の 目 標

- 高精細かつ多様なデザインへの対応
- 直接受注による直販型織物工場への転換
- 生産能力の強化
- 人材の育成

取 り 組 み の 内 容

従来、当産地において使用されているジャカード織機は、生地幅48インチ、柄直径6インチまでしか対応できないものが中心であった。当社は、以前より進めていたアパレルメーカーとの直接取引のさらなる拡大に向け、順次設備の更新に努めており、この度の当事業による新設備の導入もその一環である。新設備は、イテマウィービング社製高密度レピア織機とボーナス社製電子ジャカードを組み合わせたもので、前者は、多種多様かつ複雑なデザイン柄に対応した糸の組み合わせ制御が可能であり、後者は従来の織機に比べ圧倒的な数量の緯糸（よこいと）を駆使した高精細な写真織が可能である。この設備の稼働により、従来は生地へのプリント加工でしか対応できなかった繊細な柄の織物加工が可能となり、緯糸の本数が増えることで自然な生地の厚みと独特の柔らかさを持つ高品質な生地の生産が可能となった。このようにして生産された生地は、当社が描く自立した直販型生産工場への転換の礎となるとともに、設備の充実による生産能力の強化も実現する。さらに、最新設備を導入することで、若い後継者人材の発掘と育成という副次的効果も見込む。

企 業 概 要

遠孫織布株式会社

●事業内容
播州織生地デザイン、生産、加工

●主要生産設備
電子ジャカード 高密度レピア織機

同 社 の 強 み

他社に先駆けた先進設備の導入による**高度な技術力と商品力、および直接取引による顧客ニーズへの柔軟な対応力**

所 在 地：西脇市高田井町938番地
T E L：0795-22-2704
設 立：昭和27年4月
代 表 者：代表取締役社長 遠藤 由貴
従業員数：3人（平成29年6月現在）
資 本 金：1,000万円
E-mail：enmago@muse.ocn.ne.jp

POINT 1

生産技術の高度化による高付加価値 生地の生産

直販型工場へ転換するにあたり、取引先が要望する多種多様なデザインの生地を生産できる技術確立することが喫緊の課題であった。新設備はそれらの課題を解決する機能と性能を持ち、アウター生地やパンツ生地などこれまで手がけていなかった多様な種類の生地の生産を可能にした。



高精細な写真織



さまざまな製品

POINT 2

試作開発期間の短縮および 生産能力の強化

これまでの設備では受注が増えると稼働に余裕がなくなり、次期製品の試作品が作れず新製品開発に支障をきたしていた。新設備の導入により、試作品の生産と製品の量産を同時に行うことができ試作開発期間が短縮されとともに、将来的な受注増加にも対応できるようになった。



高密度電子ジャカード織機



従来設備



遠孫織布株式会社
代表取締役社長
遠藤 由貴氏

播州の織屋「遠孫」ブランドを育てる

現在、播州織生地の生産量は、昭和59年ごろのピーク時の約1割程度にまで減少しています。当社は、創業以来播州織生地の織物工場として産元商社からの受注生産を行ってきましたが、受注量が年々減少し、今後の事業継続を考えたとき非常に危機感をおぼえました。一方で、独特の風合いや肌触りの播州織生地は、国内だけでなく海外でも注目される存在となりつつあり、播州

織の可能性は無限にあります。私たちは、その可能性を追求しながら「遠孫」という自社ブランドを育て上げたいと思っています。そのために、これまでのように産元商社からの受注を待つという受け身の姿勢でなく、遠孫が織る播州織の優れた技術や品質の良さをより多くの方に知っていただくべく積極的にお客様と会い、直接お話ししたいと思っています。

そして、次代を担う人材を育てることも大きな目標です。今、当社には、将来、織物職人をめざす一人の若い女性が夢を抱いて働いています。彼女は、縁もゆかりもない当社に自ら一人で飛び込んできました。若い人には、現場に入り、自分の力で企画し、作り、提案することで力をつけてほしいと思います。彼女のような存在が増え、当社だけでなく産地全体の刺激となり、活気をもたらしてくれることを期待しています。